

愛育ながさき

Ai-iku-Nagasaki 58号

発行所/一般社団法人長崎県手をつなぐ育成会
発行者/竹内隆伯 発行日/令和5年9月25日
〒852-8104 長崎市茂里町3-24
長崎県総合福祉センター県棟4F 408号
Tel:095-846-8730/Fax:095-846-8738
E-mail:info@ikusei-nagasaki.jp

令和5年度 社員総会

知る見るプログラム

相談員研修

障害理解啓発研修～時津町

き
輝らっ人

時津町

令和5年度 社員総会

6/17(土) 出島メッセ長崎



再長崎駅周辺は新幹線開通に伴い再整備工事が進み、景観もめまぐるしく変わり続けています。今年度はその駅の裏側に位置するコンベンションセンター、出島メッセでの開催となりました。

～会長挨拶より～

【研修・行事など】

コロナ禍によって広まったオンラインミーティング。集合形式では参加が難しかった研修や会合に、遠隔地でも、必要な内容を自分の都合のつく時間で視聴可能という便利さを享受できました。全育連では引き続き研修や行事などでも採用する方針であり、将来的にも有効な手段として位置付けています。

【地域生活支援拠点】

現在、県内 10 か所ほどで整備されている地域生活支援拠点は、親の病気等、家族で支援することが困難な時の緊急対応 24 時間対応、体験利用、相談体制の強化など、障害のある人が地域で生活する上で重要な機能を有しています。県下全域での設置と、拠点が正しく機能しているかについて見守り続ける必要があります。

【育成会の課題】

会の活性化は全国共通の課題、育成会のみならず、他の地域コミュニティも同様に、その存在意義が問われています。県下で実施したアンケートでは「理解啓発研修」「健常者との交流」「障害年金、学齢期前、特別支援学校での研修」「地域イベントや行事への参加」など活性化取組みのアイデアとなるキーワードが出されました。

また、全育連では久保会長が退任される等、組織の新陳代謝が図られています。長崎県育成会も次世代に繋ぐためにも役員候補理事を特別枠で推薦してほしいと考えています。

新加入者を増やすために「若い方に役立つ何かを」ということで「手をつなぐ保険」の加入や冊子「手をつなぐ」の定期購読も引き続き勧めていきます。

総会では令和 4 年度事業報告、決算報告、令和 5 年度事業計画ならびに令和 5 年度予算は議案の通り決議されました。また、令和 5・6 年度役員改選について新理事候補を提案し、議案の通り決議され、被選任者は席上就任を承諾されました。



新理事の方々

久松 甲氏(大村市)

小島 義明氏(五島市)

落水 絹子氏(雲仙市)

後半は「育成会の活性化」をテーマに意見交換会を行い、みなさまからご意見を伺いました。

【川原 重信社員】コロニー雲仙育成会会長です。こちらは南高愛隣会事業所の会で、育成会の事業を実施しているわけではありません。研修会、意見交換会などを実施していますが、参加者が限定され、コロナ禍で特に会員が減少し、役員に輪番制を取り入れることなどを検討しています。会員獲得については、事業所との連携を深めることを考えています。親なきあとを引き継ぐ形が多いと思われるきょうだいが育成会活動に参加していない場合が多いので、きょうだいの意見交換会を実施しました。今後必要だと思います。

【村田 榮社員】長崎慈光園育成会です。新規会員の開拓は施設と連携して発掘し、電話を交えて勧誘しています。70 歳以上の会員が多いので、役員交代で苦労しています。

【岡村 正義社員】松浦市育成会事務局です。高齢化で、私が一番若い会員です。最近の若い方は、組織に入らなくても情報入手できるので、組織になじまない傾向です。障害福祉サービスが行き届くようになって育成会入会の必要がない現状だと認識しています。新規入会について危機感がありますので、若い方の声を聞いて、ニーズを探っていきたい。

【落水 絹子社員理事】雲仙市育成会会長です。若い方が会員になろうという気がない。役員になりたくないか

ら会に入らないという方が多い。未入会でも研修に来たい人はいるので、入会してもらうのにどうすればいいか考えています。



【前田 俊久社員】波佐見町育成会会長です。人口 1 万 4 千人。療育手帳保持者は 110 人。まだまだ入会者が少ない状況です。情報保護のため、療育手帳保持者に町から育成会紹介の案内をしていただきました。回答が 3 名あり、入会を勧めて、1 名入会していただきました。なかなか増えず会員維持が精一杯です。会長になって 10 年ですが、まだ頑張ります。

【三浦 豊社員】あかつき学園育成会会長です。コロナ禍で数年会合ができず、会員は県下に分散しており会合開催が難しい現状です。私が今年、退職したのでこれからコロナが下火になっている中で頑張っていこうと思います。

本日の総会のように自己紹介の時間をいただいたので、横のつながりも大切にして育成会内で情報交換・情報共有していきたいと思います。

【岩永 文則社員】清華学園家族会会長です。コロナ禍で 3 年間会合がなく、今年学園の運動会で知り合った方に連絡を取って連携を深め、3 月の総会時、その方々に役員をお願いしました。今後会員拡大も色々な機会を利用して関係性を深めながらやっていきたい。

【湯川 利勝社員理事】新上五島町育成会会長です。役場の職員と連携して会員募集をして、1 名の入会がありました。施設に赴いて話をした時、育成会を知らない方がいました。育成会の活動内容を教えてくれと言われたので、県育成会の研修会の案内をしました。今後、他の事業所にも出向いて育成会の紹介をして会員拡大を図りたい。

【中田 克之社員】島原市育成会社員となり、初めての参加です。特別支援学校に勤務していました。育成会の組織についてなかなか分からない。機関誌「手をつなぐ」はとてもいい雑誌ですが、あまり読まれていないと思います。興味がないと読むのはハードルが高い。会員拡大を考えるなら、会員減少や育成会消滅の理由を検討して、このままだと地域の育成会がなくなるという危機感を持つことが必要だと思います。オンライン会議などコロナ禍三年間の経験を生かすことも重要だと思います。

【竹内会長】貴重なご意見ありがとうございました。育成会で実施していることは、育成会会員に向けた事業が主になりがちなので、育成会外へ活動を広げることも重要だと思います。

私が育成会活動を始めた理由は、当時 20 代の支援者がボランティア活動で楽しそうに障害者と接しているのを見たとき、親も何かやるべきだろうと感じたのが始まりです。色々なきっかけがあると思いますが、育成会活動を通して自分も何かやろうと思えることを行う必要があると思います。県育成会は地域育成会の集合体です。今の若い人はメリットを言いますが、メリットではない、利他の心を導き出すような試み、心（気持ち）に響く活動・運動が必要かと考えます。

社員総会に参加して

松浦市育成会代表として会長と共に社員総会へ参加させていただきました。私達の育成会単独では開催できない行事であり、毎回大変助かり、学びの場となっています。議事の検討、決議が行われた後、意見交換会が開かれました。この時、初めて他の地区の育成会の実情を聞きました。どの地区も私たちの育成会と同じ悩みを抱えていることを知り、痛切な問題だということを実感しました。

私も話しましたが、会員数は毎年減少する一方です。障害のある方の保護者の高齢化や他界、それを引き継ぐはずの兄弟姉妹の脱会は増加傾向です。また、若い保護者のみなさんは会の必要性は感じながらも、集団組織の中での活動に抵抗があり、加入には難色を示されます。またネット社会の普及により情報が収集しやすいこと、SNS でも自分の意見を発信しやすくなっており、ネットワークの選択も多様化しているように思います。こうした時代の中で全国津々浦々に存在する手をつなぐ育成会が今後どのような進化を目指していくのか、転換期でもあると思います。まずは身近な地域の中で支え合う、学び合う、そして地域を取り込んでいくような活動のあり方を望んでいます。（松浦市手をつなぐ育成会・岡村正義）

『知る見るプログラム』研修会



7月8日(土)9日(日)の2日間、国立諫早青少年自然の家で、ながさき知的障害児者生活サポート協会の助成を得て、県内各地の育成会本人部会から25名、支援者8名、事務局4名が参加し、『知る見るプログラム』研修会が開催されました。

新型コロナウイルスの影響で1泊2日の開催は令和元年度以来4年ぶりとなり、日帰りの参加者も8名とやや規模が小さくなりましたが、ワークショップが始まると、和気あいあいと明るい笑顔がはじけました。

何回も参加されている方はこの場で会うのを楽しみにしていたと語り合い、初参加の方もすぐに打ち解けて、積極的に意見を発表していました。仲間とともに美味しい食事をし、夜の交流会で思い思いの話題を披露してはしゃぎ、朝夕は自然の家主催のつどいに参加して他の団体の様子を知り、ワークショップ以外の楽しみも経験しました。来年以降も研修を計画しますので、多くの方に参加していただき、思いを伝える楽しさを感じていただきたいと思います。【実施したプログラム「みんなと知り合いになろう」「チャレンジワーク」「リラックス体操」「出会いを語る」「〇×クイズ」「好きなもので集まれ」「ほめ言葉リストを作ろう」「権利ってなに?」「さいころトーク」】

「知る見るプログラム」研修会に参加して

7月8日～9日にかけて、知る見るけんしゅう会があり私達は9日の日から出て、すきなものあつまれ、ほめことば、レクリエーション、ワークショップけんりってなに?サイコロトークなどがあり、ほめことばでは、いろいろなほめことばが出ました。レクリエーションでは、はんごとの人の名前でいろいろなことばが、たくさんでて、けんりってなに?では、少しむずかしかった。サイコロトークでは、しかいをして、少しきんちょうしていたけど、ほかの人達とたくさん話しができてよかった。楽しかった。よい1日を過ごすことができました。昼休みには、長崎の人のピアノえんそうも聞けてたのしかったです。またきかいがあればさんかしたいと思います。(ネットワークセンターひかり 満丸 明美)



「権利」をみんなで真剣に考えました！

7月9日 日よう しる見るプラムけんしゅう(知る見るプログラム研修会) みんなでクイズをしました。とてもべんきょうきずなを楽しかったです。(とても勉強になって、本人部会きずなの活動は楽しかったです)らいねんもさんかしたい(ネットワークセンターひかり 中村 泰樹)

ワークショップに参加でき、参加者からのたくさんの意見等聞くことが出来ました。「権利ってなに?」のワークショップでは、難しいとの声もありましたが、一生懸命考えご自身の意見をしっかりと話されている姿が印象的でした。みなさんと出会うことができ、良い一日となりました。また、お会いできる日を楽しみにしています。ありがとうございました。(支援者:島原市手をつなぐ育成会 小坂 梓)

知る見るプログラムの泊まりでの研修会はとても勉強になりました。他の団体の人たちと交流していろんな活動があるんだなあとと思いました。またやるときはぜひ参加したいです。(西海市手をつなぐ育成会 岩本 泰介)

知る見るプログラム大変お疲れさまでした。泊まりでの研修会は久しぶりだったということもあってみなさんとても楽しく明るく過ごされたのではないかと思います。研修の中でいつも考えさせられるのは、みなさんの意見や思いです。そのような言い方や考え方もあるんだなといつも新たな視点を与えてくれます。そして自分から積極的に意見を述べると事は見習わないといけないなと思いました。また来年も、笑顔で会えるのを楽しみにしています。(西海市手をつなぐ育成会 支援員 川口 大輝)

昨年より2巡目がスタートした県育成会主催事業である障害理解啓発研修会ですが、今年度最初の開催は時津町で行われ、49人の参加者に集まっていただきました。前半は時津町育成会の事例発表があり、後半は長崎市育成会の理解啓発キャラバン隊「長崎よかよか隊」による疑似体験研修が行われました。

育成会会員をはじめ、施設職員、学校の先生、民生委員、行政関係者など、様々な立場の人が集まり、知的障害のある人の家族の話や施設職員の話に耳を傾け、疑似体験では知的障害・発達障害の人たちの困り感や生きづらさを体感いただきました。(長崎よかよか隊 吉井 裕子)

研修に参加して

障害理解啓発研修を時津町で開催するのは2回目です。

研修が初めての会員や、行政・学校関係の方々の参加が多くありました。事例発表では時津町育成会会員のお母様の立場の方が、障がいのある息子さんが生まれてから現在50歳までの様子を写真で振り返りながらご自身の言葉で紹介されました。お子さんの成長に沿って、その時々のお気持ちを誠実に話され、私からは現在グループホームで地域生活をしている様子をお伝えしました。

障害特性による数々のエピソードや、数字への強いこだわりが感じられる日記など、参加されたみなさんにとって、障害のある方を具体的に、身近に感じてもらったのではと思います。

後半のキャラバン隊では体験的に、言葉が伝わらない苛立ちや、軍手を使って作業を行い手先の不器用さ、出来ない気持ちを感じることで、また急がせたり励ますことで、感じ方の違いを参加者全員で共有しました。

地域住民はもちろん、ふだん障害施策に関わっている方が知識で得るのとは違う、感じて得る発見があったと思います。以前参加した時よりも、研修の構成や参加者への声掛けが充実していて、キャラバン隊のみなさんの経験の蓄積やご苦労を感じました。

障害者の地域生活には地域の理解は欠かせません。多くの方が体感し、障害者やその家族の気持ちを知るだけでも、身近で安心して関われる存在になることが出来ると思います。研修を開催していただいた県育成会やキャラバン隊のみなさんに感謝致します。(時津町手をつなぐ育成会 グループホーム管理者 辻 英三郎)



障害のある息子さんを紹介した事例発表



ゲナ語しか使えない…さあ、どうする？！

私の息子も重度の知的障がいがあります。毎日一緒に生活していて、わかったつもりになってしまうこともあります。知的障害理解啓発のためのよかよか隊の活動に参加する度に、気持ちを改める良い機会になっています。(長崎よかよか隊 賤間 香織)

研修会に、長崎よかよか隊として初出勤しました。初めてのプログラムもあり、少し緊張しました。「何か一つでも参加者のみなさんの印象に残り、時々、思い出して欲しい」と思いながら活動しました。

よかよか隊のプログラムは参加型の部分が多くあります。難しいことはありません。いつもの景色を違った角度からみることで、自分の世界を広げてくれるかもしれません。

プログラムの最後、質疑応答の中で、軍手を使う体験だったと思いますが、「是非みんなでやってみようと思います」という感想がありました。体験して、気づくことが理解を深め、寄り添うことで見えてくる世界があるはず、そう願っています。

知的障害者相談員研修会

7月14日(金)に佐世保市山澄地区コミュニティセンターで20名、7月21日(金)に諫早市社会福祉会館で19名、知的障害者相談員、相談業務に従事している方、保護者などが参加され、開催しました。

現在、相談を受けている事例をそれぞれ持ち寄って、相談内容の傾向を知ったり、そのうちの特徴ある事例をピックアップして、グループ討議をすることにより、解決への糸口を探って、今後に活用していくという趣旨で開催しました。

研修の前半では、長崎県内において相談経験豊かな「相談支援センター悠」の管理者の藤井修氏に「相談支援とは～誰もが安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現を目指して」の講演を受け、後半にグループでの事例研究・発表を行いました。

講演の時間と事例研究の時間配分が不十分で、事例研究の時間が短く、十分な討議ができないところもありましたが、講演については、

「相談員としての心構えや、相談支援員の重要性を学ぶことができた」

「障害者とは(医学モデルから社会モデルへの発想の転換を踏まえて)“使えるツールが限られてしまっている人たち”のことで、健常者に近づくようにツールを増やしていける支援をしていきたいと思いました」

という感想をいただきました。

事例研究については、

「自分が思いつかないことや考えをグループ討議で知ることができた」

「実際の事例をもとに、本人のニーズがわからないのをどう理解し、対応していくのか、どうつなげていくのか、みんなで考え意見を出し合えたのは参考になった」という感想がありました。



知的障害者相談員研修に参加して

7月14日佐世保市山澄地区コミュニティセンターにて実施された知的障害者相談員研修会に参加し、貴重なお話を聴かせていただきました。その後、4つの班に分かれ事例を基に支援の在り方を検討しました。

相談支援とは、自立の促進と障害者総合支援法の理念である共生社会の実現に向けた支援を実施することであり、その為には相談員のスキルや知識を高め、インフォーマルサービスを含めた社会資源の改善及び開発、地域の繋がりや希望を見出す等の支援が求められることをこの研修で学びました。

私はえくぼの相談員としてまだ一年程の経験しかありませんが、毎日が学びの連続です。困った時に相談することは、勇気が必要な時もあると考えます。相談を受ける際は、その方の気持ちを大切に丁寧な対応や支援を心がけ、相談をして良かったと思っていただけるよう今回の学びを活かし、精進したいと思います。(相談支援事業所えくぼ 伊賀崎 春美)



き 輝らっ人



ピアノも陸上も…コツコツ努力して花開く！

ふるせ ひろと
古瀬 弘翔さん

島原特別支援学校高等部に通う弘翔さんがピアノ教室に通い始めたのは7歳の時。施設での療育が終了し、不安でいっぱいだった母、めぐ美さんは「息子に何かさせたい」と体操やサッカーの教室などを見学して回ったものの、集団での習い事は難しいと断念。一方で太鼓が好きでリズム感が良かったこと、手先を使うことは療育にもなるのではと、ピアノを思いつく。評判の先生がいると聞いて、勇気を振り絞って電話してみた。

当時は障害をまだまだ受け入れられなかったというめぐ美さん。「息子のことをどんな風に説明したか覚えていない」が、ピアノ講師の小無田恭子さん(愛育ながさき 57号で紹介)は「障害があっても大丈夫、どうぞ連れてきてください。そういうお子さんから私たちが学ぶことも多いですよ」と招き入れてくれた。

ピアノ教室に行くと、片手ずつ、弾けたら覚えるまで反復練習…と、マスター

するののに人の何倍も時間はかかったが、音のミスに自分で気付けるようになり、上手に弾ければ先生から笑顔でほめられ、難しいこともわかりやすく教えてもらい、弘翔さんは次第に自信をつけていく。めぐ美さんも自宅練習に活かすため練習のポイントをメモするなどして寄り添い、週に一度のレッスンは親子の楽しみになった。

演奏の喜びを覚えた弘翔さんは、小無田さんの勧めでコンクールに出場。九州新聞社コンクール、日本バツハコンクール、ルーマニア国際音楽コンクール等々、全国大会でも数えきれないほど賞を獲得。「緊張しない？」と尋ねると、はにかみながら首を傾げて「しません」と、とても穏やかな性格の弘翔さんだが、ピアノに向かう姿は真剣で、一つ一つの音を丁寧に、しっかりと響かせていく集中力には目を見張るものがある。受賞もちろん嬉しいが、めぐ美さんは息子の努力する姿が見られること、支えてくれる、応援してくれる人たちと出会えたことが財産だと考えている。

ところで、学校では高校から陸上部に入部したという弘翔さん。家族も驚く意外な入部だったが、本人はきつくてできなくても、ピアノで鍛えた粘り強さを武器に頑張っているそう。興味のあるものにどんどんチャレンジしていく姿が眩しい、輝き続けて欲しい注目のアーティストだ。



ルーマニア国際音楽コンクールにて
優秀賞(中学3年時)

輝らっ人に登場してみませんか？

愛育ながさきでは「輝らっ人」の記事を募集中です。あなたの周りの「きらっ」と光る人・モノをご紹介します。

文と写真を県育成会までお送りください。(文・写真は返却不可)メールも可です。

〒852-8104 長崎市茂里町3-24 長崎県総合福祉センター県棟4F 408号 E-mail:info@ikusei-nagasaki.jp

知的障がい児者・自閉症児者の 生サポは 家族の安心を支えます

- 日常生活に関する相談支援
 - 就労に関する相談支援
 - 権利擁護に関する相談支援
- の3事業を実施しています。

当会にご入会いただくと、
知的障がい児者、自閉症児者のための
病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

AIG損保の普通傷害保険

生活サポート総合補償制度

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、職業従事事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・設者

ジェイアイシー九州

〒810-0001 福岡市中央区天神4-6-7

天神クリスタルビル14階

TEL: 092-791-7561 FAX: 092-791-7562

受付時間: 午前9時～午後5時

(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社

AIG損害保険株式会社

https://www.aig.co.jp/sonpo

福岡支店

〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-35 富士火災福岡ビル

TEL: 092-718-7000

受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

主な補償内容

病気やケガで入院したとき
入院給付金

病気で死亡したとき
疾病葬費用補償金

虐待・逮捕・勾留に対応するとき
弁護士費用等補償金 ※オプションによって異なります

ケガをしたとき
死亡・後遺障害・入院・通院・手術・各保険金
(地震・噴火・津波によるケガも対象)

賠償責任を負ったとき
個人賠償責任保険金

就労中に他人にケガをさせたり
物を壊してしまったとき
職業従事事故対応費用補償金 ※オプションによって異なります

※上記は概要です。詳細は下記までお問い合わせください。

ご入会のお問合せはこちら

ながさき知的障害児者生活サポート協会

〒852-8134 長崎市大橋町19-19

長崎市手をつなぐ育成会内

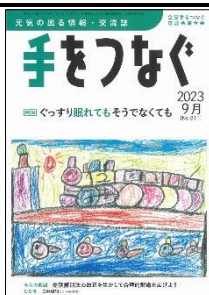
TEL: 095-845-5668 FAX: 095-845-5664

受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

2019年11月現在の内容です。(D-004329 2021-03)

《 長崎県手をつなぐ育成会行事のお知らせ 》 1 月まで

九州大会福岡市大会	10 月 7 日 (土) ～8 日 (日)	福岡国際会議場	9:30～12:00 式典／中央情勢報告 13:00～16:00 全体会 (10:45～16:00 本人大会 3 コース) 16:00～16:30 閉会式
ながさき育成会 フォーラム	10 月 21 日 (土)	長崎県歯科医師会館 5 階 講堂	13:00～14:40 講演 「あなたのそばに手をつなぐ育成会 ～楽しいところにはか人は集まらない～」 講師：全国手をつなぐ育成会連合会 副会長 小島 幸子 氏 14:50～16:30 グループ 討議 「どうする？ 育成会」
全国障害者 スポーツ大会	10 月 28 日 (土) ～30 日 (月)	鹿児島県	結果については次号掲載予定
長崎県育成会理事会	11 月 17 日 (金)	長崎県総合福祉センター 社協棟 4F セミナールム D	13:30～16:00 上半期事業報告・ 予算執行報告など
障害理解啓発研修 (知的障害疑似体験)	11 月 25 日 (土)	奈良尾町地域福祉センター (新上五島町)	12:30～15:00 会長挨拶／事例発表 「長崎よかよか隊」による疑似体験
本人部会「長崎きずな」 連絡協議会	12 月 3 日 (日)	長崎県総合福祉センター 4 階交流室	10:00～12:00 障害者施策に関する 意見を聴く会・反省など(予定)
無料法律相談 (壱岐市は 「保険の話」なし 13:30 から講話)	12 月 5 日 (火) 12 月 14 日 (木) 12 月 18 日 (月) 1 月 18 日 (木) 2 月 6 日 (火)	壱岐市 (会場調整中) 長崎市出島メッセ長崎 雲仙市愛の夢未来センター 時津町総合福祉センター 諫早市社会福祉会館	13:30～14:00 「保険のはなし」 (ぜんち共済・生活サポート協会) 14:00～15:30 講話・質疑 「親なき後の悩み相談」 弁護士 曾場尾 雅広氏 15:40～17:00 個別相談 (なんでも可)
長崎県障害者芸術祭	1 月 14 日 (日)	アルカス SASEBO	13:00～16:00 (予定)
全国大会愛媛大会	1 月 27 日 (土) ～28 日 (日)	愛媛県松山市	10:30～16:00 分科会(育成会/本人) 18:00～20:00 懇親会・交流会 (翌日) 9:00～12:20 式典/講演(秋川雅史氏) 中央情勢報告/決議/次回開催地挨拶



「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者（本人・家族）に関しての教育・福祉・労働等々の諸施策を中心に、全国手をつなぐ育成会連合会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。年間 3,900 円 B5 版 48 ページ

長崎県手をつなぐ育成会までご連絡ください。

お申込みは TEL 095-846-8730 FAX 095-846-8738 へ

知的障がい・発達障がい、ダウン症、てんかんの有る方、ご家族に

病氣やケガが絶えない…
成人病や生活習慣病に備えたい…
他人の物を壊してしまった…
虐待・雇用現場での差別など
人に相談しにくい悩みがある…

障がいのある方とご家族へ

ぜんちの
あんしん保険
少額短期損害総合保険(無告知型)2019年創設

- ・最高日額1万円
- ・個人賠償責任補償
- ・弁護士費用補償
- ・安心サポート

特別支援教育を必要とされている方へ

ぜんちの
こども傷害保険
権利保護損害賠償傷害保険 2019年創設

- ・入院・通院を日額保障
- ・個人賠償責任補償
- ・トラブルに巻き込まれた際、弁護士がサポート

このようなお困り事に
心当たりがある方に…

弁護士が
全面的に
サポート

詳しい資料のご請求・お問合せはこちら



ぜんち共済株式会社
関東財務局長(少額短期保険)第14号

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5 九段北325ビル4階

0120-322-150

平日9時～17時/土日・祝日・年末年始を除く
URL: <http://www.z-kyosai.com/>

取扱代理店(資料請求・その他お問い合わせ)

有限会社トータル・サービス

〒850-0033 長崎県長崎市万才町6-35大樹生命長崎ビル5F

TEL:095-827-7705 FAX:095-832-2580

※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。

【2020年1月作成 19-TC06633】